

令和5年度 学校教育アンケートの結果から

全体的には、保護者アンケート、学校関係者アンケートともに肯定的な評価でした。その中で、特に改善が必要と考えられるものは以下の通りでした。

〔保護者アンケートから〕

- 質問項目3の「本を読む習慣」については、第1回、第2回ともに評価が低いままでした。図書委員会を中心に、読書ビンゴ、図書室・読書クイズなど興味・関心を高める取組を行ってはきましたが、生活の中に読書が位置づけられるまでにはなっていないようです。学校で読書の時間を確保するとともに、家庭学習の1つとして、家でも家族みんなが本を読む「30分読書」などの取組をしていくとよいと考えています。
- 質問項目5の「家庭学習の習慣」についても、あまり評価が高くありません。家庭学習の手引きを配付して取り組んではいますが、それだけでは不十分なようです。メディアコントロールとともに、児童の学習へ向かう意欲を高める更なる取組が必要だと感じています。
- 質問項目6の「早寝・早起き・朝ご飯」についても、全体の中では評価が低い方だと言えます。今年度から、「生活リズムチェック」という取組を始めました。今後回数を増やし、目標を学校と家庭が共有して向上を図りたいと考えています。

〔学校関係者アンケートから〕

- 質問項目6の「姿勢」について、本校は視力が低い児童の割合が高いことから大切な視点です。教職員がもう少し意識を高くして声かけをするとともに、家庭にも呼びかけ、共に取り組んでいく必要があります。

〔保護者・学校関係者アンケートの両方から〕

- 質問項目1の「あいさつ」は、保護者、学校関係者ともに評価が低くはありませんが、実際には、「地域の方にもう少し気持ちのよいあいさつができる」といった声も聞かれました。チャレンジ目標の1つに掲げている「あいさつ」ですから、更に向上を図れるよう、「あいさつの花をさかせよう」の取組を始めたところです。
- 質問項目4の「学習内容の理解」は、学校として取り組むべき重要な課題だと考えています。複式授業の充実について視点の1つにして研修を進めるなど、子どもの学びにつなげられるよう、今後も努力して参ります。

〔自由記述から〕自由記述では、以下のようなご意見もいただきました。

- 自分で考えることをやめて、ただ先生に言われたことだけをやっているような姿勢を感じる事が多々ある。子どもたちが主体となり、何かを進めていく、そんな授業がもっと増えれば、学ぶことの楽しさを感じられるのでは、と思う。
- 学校から地域への発信は、関心がある方はよく見ていると思うが、一方で学校への関心がうすれている方も増えていると思う。地域の方に関心を持っていただける方法があるといいなと思っている。
- 地域と学校がもっと一緒に何かできる時間があるといいと思う。

